



(株)発展工業  
代表取締役

浅井 太司

特別対談

渡嘉敷 勝男

ゲスト  
インタビュー

# 一件一件の仕事に全力を注ぐ真摯な姿勢と 高い技術力で信頼を蓄積する解体工事会社

滋賀県長浜市で解体業を営む「発展工業」。浅井社長は2005年に事業をスタートし、これまでに挙げた実績は数しれない。高い技術力と解体業に懸ける熱い想いで、着実に信頼を蓄積してきたのだ。本日は元WBA世界Jr.フライ級チャンピオンの渡嘉敷勝男氏が同社を訪問。社長の歩みを交えた事業のお話を伺った。



「まずは、浅井社長が歩んできた道程からお聞かせください。」  
「ここ滋賀県長浜市の出身です。建設業界に入ったのは16歳の時のことで、鳶職からスタートしました。その中で鳶職と縁の深い解体業の仕事に惹かれて転向し、現在にわたるまで続けてきました。」  
「独立をされたのはいつごろのことだったのでしょうか。」  
「28〜29歳のころに独立しました。私は早い段階から仕事を始め、「生活のためには自分で事業を始めたほうがいい」と考えていました。また、自分自身の手で道を切り拓いていきたいという思いも、独立の原動力となりました。そうして事業を続けてきて、20年近くになります。」  
「そこから長く事業を続ける中では、どのようなことを大事にされてきて？」  
「信用・信頼です。仕事を頂けるチャンスというのは、一回きりであれば可能性は一定数あると思います。ただ、そこでもいい加減な仕事をしてしまえば、その一回で終わってしまうでしょう。そこで「次もお願いしよう」と思っていただけのように、一つひとつの仕事を確認に、真剣に取り組み、やり遂げることが肝要だと思います。勿

## Guest Comment



「一件一件の仕事は何より大事にして日々全力を注いでおられる浅井社長。その姿勢は、1R1R、そして一つひとつの攻防に力を注ぎ込むボクサーの生き様にも感じました。その真剣な姿勢と、嘘偽りのないありのままの姿を大事にしておられる姿に、好感を抱きましたよ！」

論、私の考えだけが正解という訳ではないでしょう。けれども私はお任せいただいた以上は100%以上の仕事を行い、お仕事を下さった方のご期待にお応えしたい、喜んでいただきたいと考えているのです。」  
「熱い思いが伝わってきますよ。そうした思いや姿勢はスタッフさんとも共有されていますか？」  
「ええ。私はスタッフは人数よりも中身が大切で、それぞれがプロであるべきだと考えています。当社では全ての班がしっかりと仕事を完遂すべく、一件一件真剣に取り組んでいると自負しています。技術力の高さも当社の強みであり、解体工事の質においてはどこにも負けません。」  
「仕事に対するこだわりと矜持を感じます。これまで一番大変だったお仕事はどのようなものでしたか？」

## CHECK POINT ありのままの自分を大事に、信頼いただける関係を構築していきたい

▼浅井社長が大切にしていることの一つに、「自然体の姿勢」がある。社長は自身より年長の方と付き合うことが多いが、そこで無理に慰められる態度を取ったりせずに、リラックスし、オープンな姿勢で接するように努めているそうだ。思ってもいないような美辞麗句で取り繕うのではなく、正直な思いを口にし、自分をさらけ出す。その率直で自然な姿勢が伝われば、相手も自然体で接することができる。そうした裏表のないありのままの姿でお付き合いし、「この人と一緒に仕事をするなら大丈夫だな」と相手に思ってもらえることが、信頼につながっていくと信じて

いる。  
▼「生活をするためにはお金が大事ですが、お金そのものはただの紙切れ。本当に大事なのは信頼であり、真のお付き合いだと思います。その上で私が大切にしているのが、素直にまっすぐお付き合いさせていただくこと。そして、それを分かってくださる方がおられれば良いと思います」と社長。迎合することなくありのままの生き様を大切にす芯の強さが、社長のお話からは窺える。最後に「『発展工業』に関わった全ての人が人生において発展して下さったら最高です」と社長は締めくくってくれた。

のようなものでしたか？」

「全ての仕事が大変ですけど、元々違う会社が担当される予定だったものを、予定が変わって急遽お任せいただいた仕事がありました。鉄筋コンクリートとお聞きして、解体のシミュレーションもすっかり行っていたのですが、天井裏を見ると全部木造だったんですね。壁にはコンクリートが塗ってあり、どう潰すべきかの判断が難しい案件でした。木造はできあがれば大丈夫ですが、組んでいるからしっかりしているだけで外せば外すほどふらついていくのです。そのため木造住宅は解体が難しいです。外側に倒れてしまうと事故につながります。大変難しい工事でしたが、なんとか無事やり終えてお客様にお応えすることができ、安堵するとともに大きな自信となりました。」

「難しい仕事にも真剣に取り組み、成長の糧としてくれたんですね。お仕事において、大事にされていることは何ですか？」

「お客様への対応を大切にしています。解体業の仕事とは建物を潰して綺麗にするのとて、どうしても近隣の方にご迷惑をお掛けしてしまう場面が発生するものです。ただその中でもできる限り、ご近所の方に迷惑をかけないよう考え、努力し、作業をする。それが「発展工業」です。そうした姿勢を貫くことで「発展工業」に仕事を頼んで良かった」とご信頼いただきましたら、嬉しい限りです。そしてお客様が喜ばれる声を聞くことで、また一件一件の大事さを実感して励みとし、お客様への感謝の思いと活力を持って次の仕事へとつないでいくことが大切だと思います。」

「本当に高い意識を持ってお仕事に取り

組んでおられる。最近では法人化もされましたが、何かきっかけが？」

「仕事をしていていてスタッフの方がより安心できる環境を作らなくてはいけないと考えたためです。福利厚生面でもそうであり、安心できる環境づくりも代表者としての務めではないかと思ったのです。また、2022年は私が年男ということの良い節目でしたし、「これを機にやってみよう」と思ったことも、法人化した理由の一つですね。」

「スタッフさん思いですね。最後に、将来の展望についてお聞かせください。」

「人として生まれてきた以上、「死」はどうしても避けられないことで、だからこそ私は、人生を楽しむことが大事だと思っています。そして人生を楽しむ上で大切なのが仕事であり、継続的に仕事を続けるのに必要な信頼だと考えているのです。ですからこれからも人生を楽しく過ごすために、信用を大事に生き、最高の仕事を尽くして、お仕事を下さった方にお応えしていきたいですね。」

「また、人生においては「老い」も必ずやってくるものです。そこで当社では、ベテランのスタッフが老後を迎えた後も幸せに暮らせるようにしたいと考えています。例えば年を経た後も会社にやってきて皆で食事をしたり、バイトのような感覚で仕事をしたりできる環境をつくりたい。皆が今一杯頑張ってくれているからこそ、定年後も楽しんで暮らせるような場所づくりを行なっていきたいですね。そうした取り組みが、若いスタッフを皆で支えていけるような環境づくりにもつながるのではないかと考えています。」